

# 09年度第2四半期(累計) 決算説明資料

2009年11月5日

**沖電気工業株式会社**

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

※億円単位の数値の表示方法について:

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。  
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

## 本日のご説明内容

1. 第2四半期累計期間 決算について
  - 1-1) P/Lの概要
  - 1-2) 事業別セグメント情報
  - 1-3) 営業利益の変動要因
  - 1-4) B/Sの概要
  - 1-5) キャッシュフローの概要
  
2. 通期業績予想について
  - 2-1) サマリ
  - 2-2) 定性的情報

## P/Lの概要

(単位:億円)	実績	前年同期
売上高 (除く半導体)	1,890 (1,890)	2,869 (2,328)
売上原価	1,386	2,214
販管費	520	761
営業利益 (除く半導体)	△16 (△16)	△106 (△54)
営業外収支	△31	△27
経常利益	△47	△133
特別損益	△12	△184
税引前利益	△60	△317
当期純利益	△70	△353

### 【対前年比較】

- 半導体セグメントが抜けた影響は、  
売上高 541億円減収  
営業損益 51億円改善  
  - 販管費はこの影響のほか、固定費適正化効果などにより減少
- 特別損益は前年に事業構造変革策の実施や制度変更などがあったことから良化

### 【参考:平均為替レート】

	09年度	前年同期
USD	95.5	106.1
Euro	133.2	162.7

\* 半導体事業は、前年10月に分社化の上株式を譲渡

## 事業別セグメント情報【サマリ】

### 【対前年同期比較】

\* 以下、事業別セグメント情報では前年の半導体を除く

- 売上高は、438億円の減収
  - ・情報通信セグメントは金融事業でのATMリプレースや営業店システム展開の一巡
  - ・プリンタセグメントは為替影響に加え、市場の縮小によりSIDMが減収
  - ・その他セグメントは厳しい経済環境の影響を受け、部品関連事業が依然低迷
- 営業利益は、売上減少による減益を調達コスト低減およびVEや固定費の適正化などで吸収し、38億円増益
- 為替影響は売上高で103億円、営業利益で29億円、それぞれ減少

(単位:億円)	実績		前年同期 (* 除く半導体)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信	1,103	4	1,351	△48
プリンタ	683	20	829	38
その他	104	△10	148	△4
消去・本社費	—	△31	—	△41
<b>合計</b>	<b>1,890</b>	<b>△16</b>	<b>2,328</b>	<b>△54</b>

ATM: Automated Teller Machine  
 SIDM: Serial Impact Dot Matrix  
 VE: Value Engineering

## 事業別セグメント情報 【情報通信】

### ■ 売上高

#### ➤ 金融：

流通向けATMリプレイスや営業店システムの大型案件が一巡したことなどから減収

#### ➤ 通信：

通信キャリア向けはGE-PONの出荷台数の増加や既存NWが増収となったものの、「事業の選択と集中の加速」により不採算のホームNW機器を縮小させたことから、全体では減収

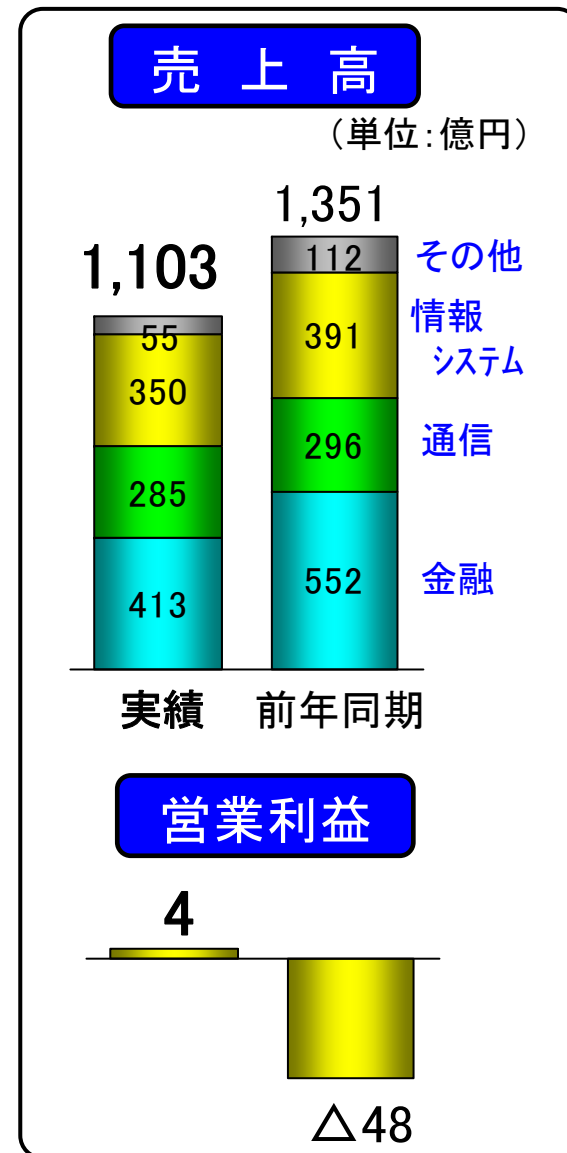
GE-PON : Gigabit Ethernet Passive Optical Network  
NW : Network

#### ➤ 情報システム：

官公庁向けは、ほぼ前年並み。法人向けは、製造業を中心に厳しい経済環境の影響もあり減収

### ■ 営業利益

物量減による限界利益の減少はあるものの、調達コスト低減およびVEや固定費の適正化などにより、52億円改善し4億円の黒字



## 事業別セグメント情報 【プリンタ】

### ■ 為替による影響

▶ 売上高102億円減収、営業利益30億円減益

### ■ 売上高: 為替影響を除き44億円減収

▶ カラーNIP:

経済環境悪化影響はあるものの、新商品投入やプロモーション効果があり、販売台数はほぼ前年並み

NIP: Non-Impact Printer

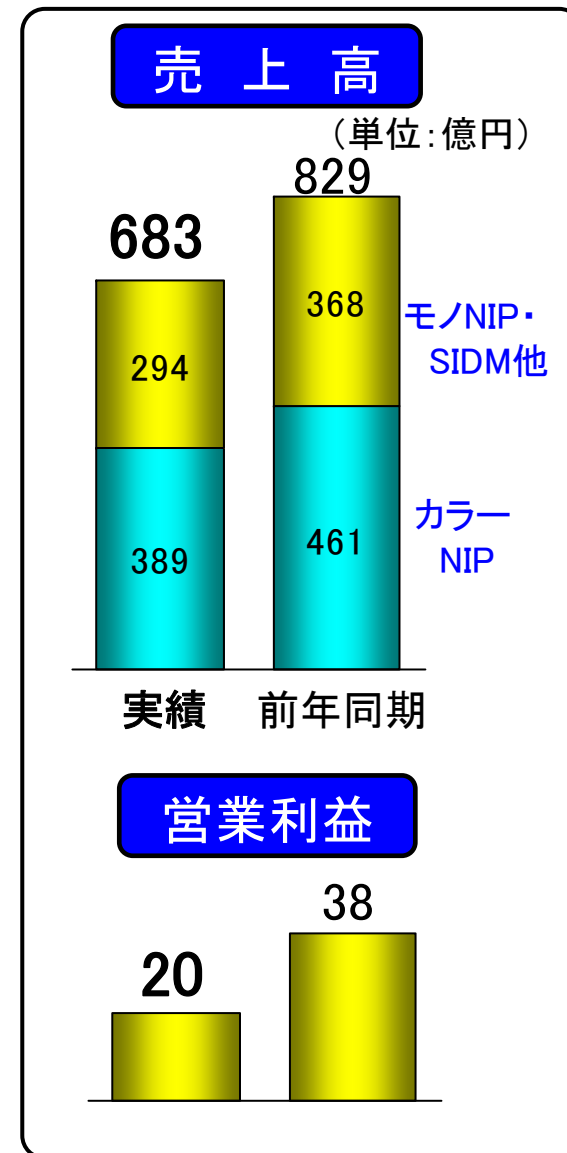
▶ モノNIP・SIDM他:

・モノNIPは昨年後半の新商品に加え、欧州でのプロモーション効果などもあり販売台数増加

・SIDMは市場全体の縮小により販売台数減少

### ■ 営業利益: 為替影響を除き12億円増益

物量減による限界利益の減少や価格下落はあるものの、調達コスト低減およびVEや固定費の適正化などにより、為替影響を除いては増益



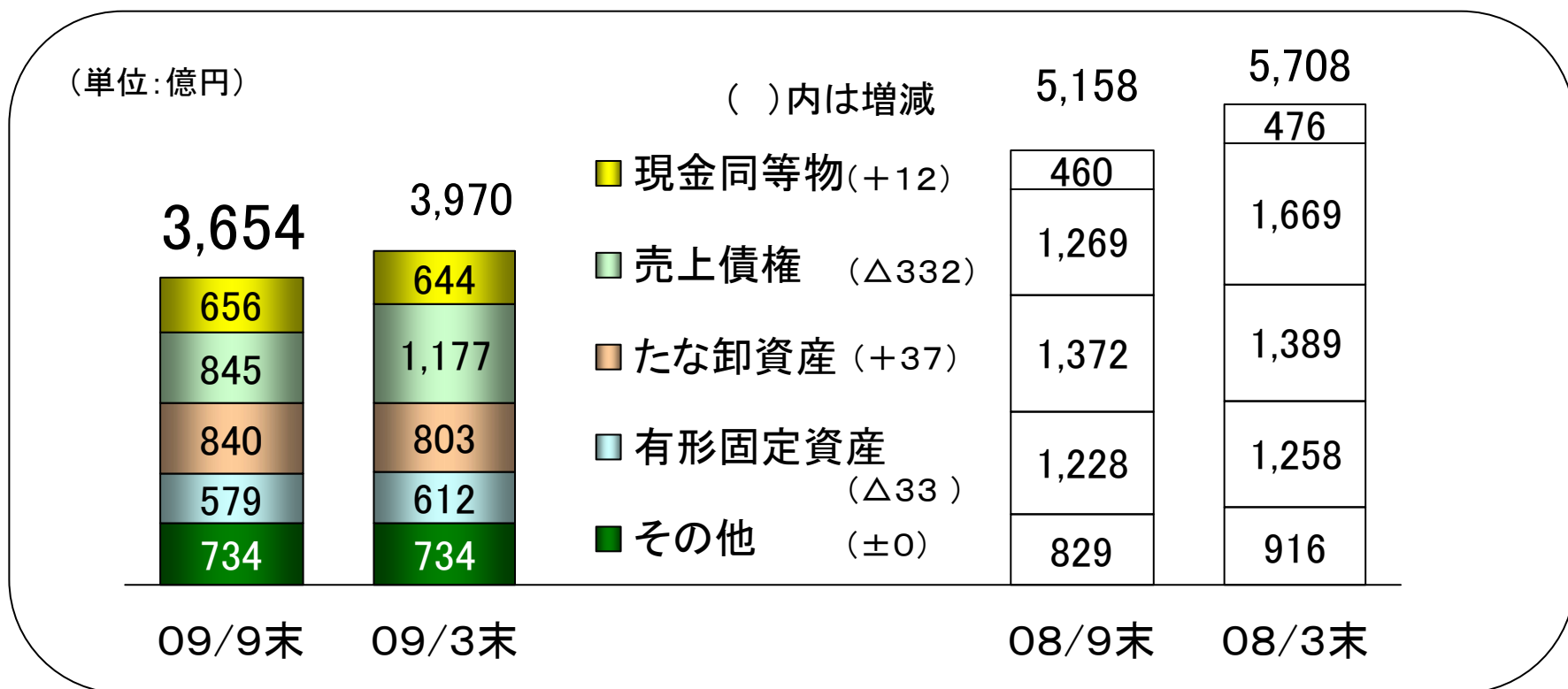
## 営業利益の変動要因

- 物量減による限界利益の減少や価格下落、さらに円高による影響はあるものの、調達コスト低減およびVEや固定費の適正化などにより、前年比38億円増益

(単位:億円)		営業利益
	実績	△16
	前年同期 (* 除く半導体)	△54
	営業利益増減	+38
主要 変動 要因	物量増減および機種構成差	△90
	価格下落	△20
	為替影響	△30
	調達コスト低減およびVE	+35
	固定費変動	+140

## B/Sの概要【資産の部】

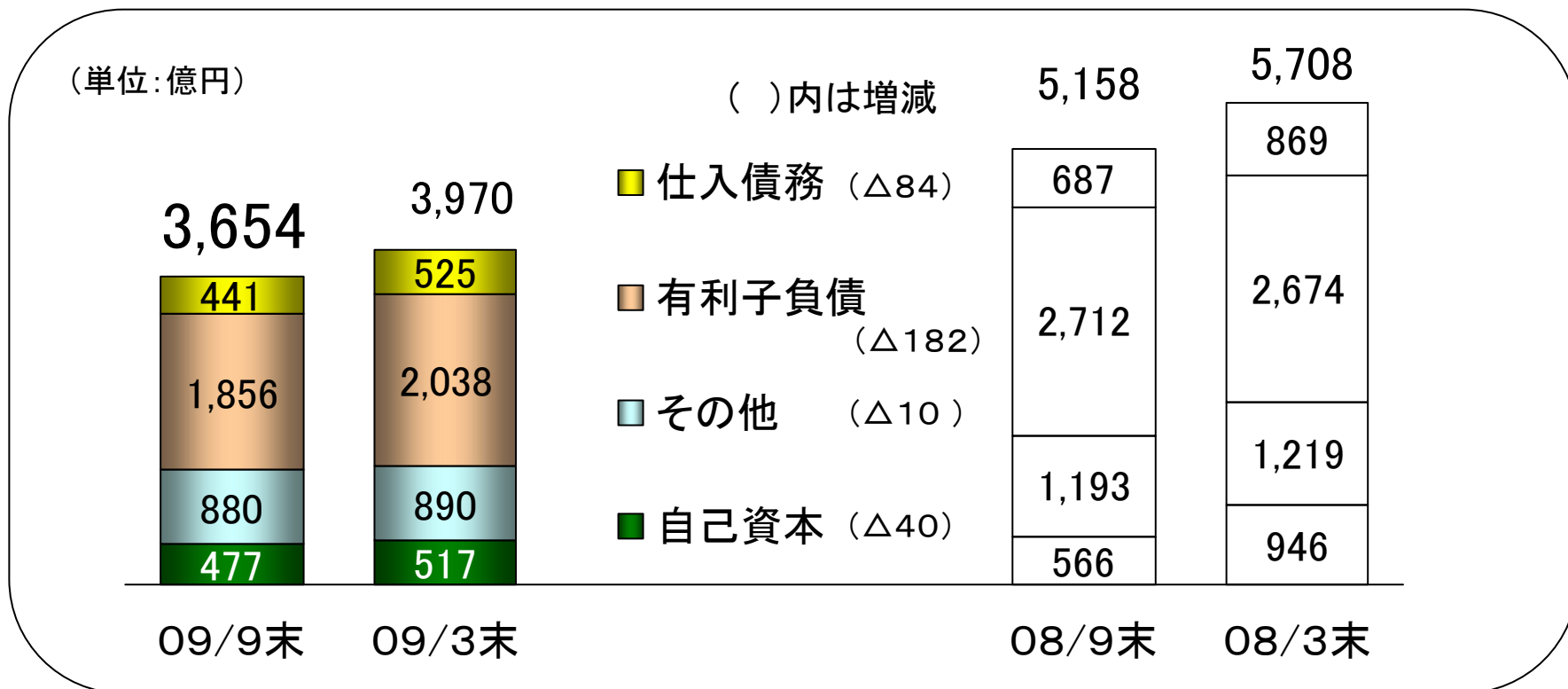
- 現金同等物は社債償還などによる減少はあるものの、運転資金の改善等によるフリー・キャッシュフローの収入により、ほぼ3月末と同水準
- 例年通り、前第4四半期の売上高が大きいことから  
 売上債権：3月末に増加し、翌2四半期に現金等で回収されるため9月末に減少  
 たな卸：3月末に減少し、翌2四半期には生産平準化等により9月末に増加





## B/Sの概要【負債・純資産の部】

- 有利子負債は社債の償還などにより減少
- 自己資本は保有株式の評価額上昇による評価差額金の増加などがあるものの、当期損失があるため全体では減少



## キャッシュフローの概要

- 当期純利益の改善を中心に、フリー・キャッシュ・フローは収入増
- 社債の償還などにより、財務キャッシュフローは支出増

(単位:億円)	実績	*前年同期	備考
<b>I 営業キャッシュフロー</b>	253	71	
税金等調整前当期純利益	△60	△317	
減価償却費	76	162	
運転資金の増減	214	215	
その他	23	11	
<b>II 投資キャッシュフロー</b>	△48	△132	
設備投資支払額	△41	△121	
その他投資活動	△7	△11	
フリー・キャッシュフロー(I + II)	205	△61	
<b>III 財務キャッシュフロー</b>	△191	27	
キャッシュフロー計(I + II + III)	14	△34	
<b>現金同等物等の期末残高</b>	656	460	

\* 前年には半導体セグメントの数値が含まれる

## 本日のご説明内容

1. 第2四半期累計期間 決算について
  - 1-1) P/Lの概要
  - 1-2) 事業別セグメント情報
  - 1-3) 営業利益の変動要因
  - 1-4) B/Sの概要
  - 1-5) キャッシュフローの概要
  
2. 通期業績予想について
  - 2-1) サマリ
  - 2-2) 定性的情報

## 通期業績予想について【サマリ】

最近の業績動向を踏まえ、その他セグメントの売上高を40億円下方修正。  
費用圧縮などにより、利益は据え置き。

(単位:億円)	通期予想		
	今回	前回公表	修正額
売上高	4,560	4,600	△40
情報通信	2,800	2,800	0
プリンタ	1,500	1,500	0
その他	260	300	△40
営業利益	140	140	0
情報通信	125	120	+5
プリンタ	80	90	△10
その他	0	0	0
消去・本社費	△65	△70	+5
経常利益	75	75	0
当期純利益	20	20	0

## 定性的情報

### 【売上高】

その他セグメントは、依然厳しい経済環境の影響を受け、部品関連事業の業績が低迷していることから、前回公表値を40億円下方修正

- ▶ 情報通信セグメントは、金融における案件の繰延により減収。通信は、通信キャリア向けのアクセスNWおよび既存NWなどが増収。情報システムは、官公庁向けの案件増などがあり増収。全体では前回公表どおり。
- ▶ プリンタセグメントは、厳しい経済環境や欧米での競争激化などによりカラーNIP・モノNIPとも販売台数が下回るものの、為替レートを加味し前回公表どおり。

### 【営業利益】

物量減による限界利益の減少や価格下落など減益要因はあるものの、より一層の費用圧縮を進めることや為替レートの影響もあり、期初計画通り140億円